

氷川町 特産品 紹介

かんきつ



東京で販売促進

町内の柑橘栽培面積は、晚白柚19ヘクタール、温州みかん15ヘクタール、不知火(デコボン)類7ヘクタール、ネーブル5ヘクタール、八朔4ヘクタールで合計50ヘクタールを120名の農家で栽培しています。(平成23年度熊本県

果樹振興実績書)

中でも温州みかんの歴史は古く、明治30年ごろ吉野地区の天堤一帯の国有林の払い下げを受けて開墾し、9ヘクタールに尾張系温州みかんを植え付けられたことから普及がなされ、町内の各地で開墾が始まりました。

晚白柚は昭和30年代後期より振興が図られ、現在では八代の特産果樹として位置づけられ、贈答用として消費者に大変喜ばれています。



八代地域果実品評会

同時に、昭和35年からは開墾ブームとなり、ネーブル・八朔・不知火(デコボン)も管内で植栽され、生産量も拡大していきました。高接ぎや改植により様々な品種が栽培され、高糖系の品種に切り替わり、栽培方法では温州みかんへの土壌水分調節マルチ被覆により高品質の果実生産がなされ、消費地からは高い評価を受けています。

9月中旬から肥のあかりの出荷が始まり、晚白柚、ネーブル、不知火(デコボン)と4月下旬まで出荷が続きます。暑い陽ざしの中、おいしいみかんづくりに頑張っています。

表紙の ひとつ

今年も7月16日
日から梨の出荷
が始まりました。
非常にみずか
みずしい甘みの強い幸水や甘みと酸味のバランスが良く、やわらかい感じが特徴の豊水などが出荷されています。梨には血圧を下げる・虫歯なりにくい・便秘解消・疲労回復・二日酔い・解熱効果・咳止めなどいろいろな効能があるそうです。



編集後記

9月は定例議会が開かれますが、町の予算が適正に使われていたかを審査する決算審査が行われます。町長より行政サービスと福祉向上に努める予算案が提案され、議会の議決を経て初めて予算が執行できます。決算審査は議会が決定した予算が適正に執行されたか、どのような成果を挙げたかを審査するものです。審査の結果は後年度の予算編成に反映されるよう議論を尽くして参りたいと思います。私たちが議員は11月が任期満了となり10月に改選を迎えますが、議会だよりに対してご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

9月定例会議会だよりは休刊します。

議会広報調査特別委員会

- 委員長 永田義昭
- 委員 二浦賢治
- 副委員長 坂本悦男
- 委員 上田俊孝